

# 事業概要票

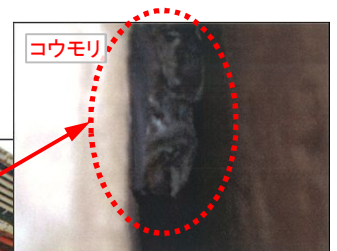
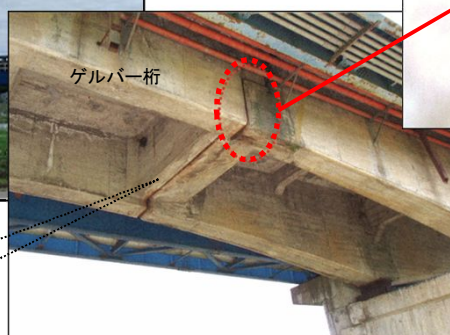
事例NO. 58（平成23年度発表）

事例キーワード

「ヒナコウモリ」  
「バットボックス」

事業名		地方道路交付金事業【大曲橋架替事業】	「ヒナコウモリ」 「バットボックス」
事業担当機関		仙北地域振興局建設部	
事業期間		H16年度～H28年度	
実施場所		大仙市大曲西根～大曲金谷町	
事業概要	全体事業費	8,300百万円	
	工事概要	全体改築延長：L＝1,334m、大曲橋(新橋)：L＝523m	
	事業の目的	【老朽橋の架け替え】 県道大曲大森羽後線の大曲橋（通称「金谷橋」）は、昭和13年に架設された橋であり、老朽化が著しいほか、幅員狭小、アプローチ部が河川管理上の支障にもなっていることから、橋の架け替えを行い、円滑で安全安心な交通の確保を図るものである。	
環境配慮の内容	○ヒナコウモリ集団繁殖地の保全。 ～現橋においてヒナコウモリが（秋田県版レッドデータブック：絶滅危惧ⅠB類指定）が集団繁殖を行っており、その保全を図ることが最終目標。 ・ヒナコウモリ生息の実態把握のため、環境調査を実施。 ・個体数調査及び実証実験等を行い、利用状況を調査。 ・保全施設（バットボックス）の設置、モニタリング調査。		
施工後の状況	・環境調査で生息状況を把握。 ・実証実験により、コウモリのバットボックス利用状況を確認。 ・現在新橋の工事中であり、ヒナコウモリ保全のための具体策はこれからという状況。		

## 図面、写真、説明



<ヒンジ部>  
この隙間でヒナコウモリが  
繁殖コロニーを形成！

事業概要票  
事例NO. 58（平成23年度発表）

図面、写真、説明

◆大曲橋環境調査

H18～H22年度 環境調査（生息環境、個体数調査、バットボックス実証実験）

- ・概ね5月上旬から9月下旬まで、ねぐら及び出産・哺育の場として利用。
- ・繁殖期（出産後）に、少なくとも2万頭以上が生息。
- ・材質・形状により若干の差はあるがいずれのバットボックスでもコウモリの利用を確認。

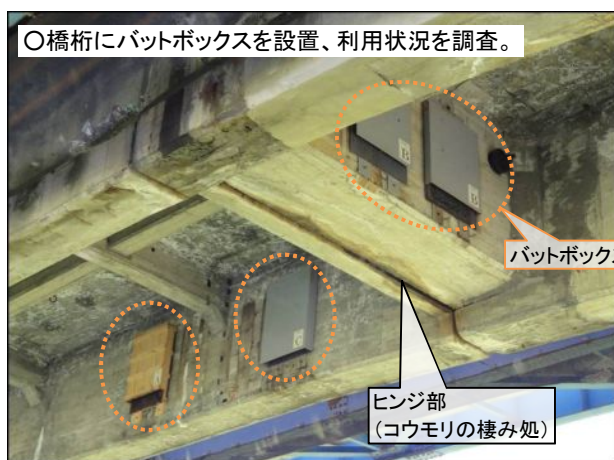
【小型コウモリ類の生活サイクル】

大曲橋利用期間

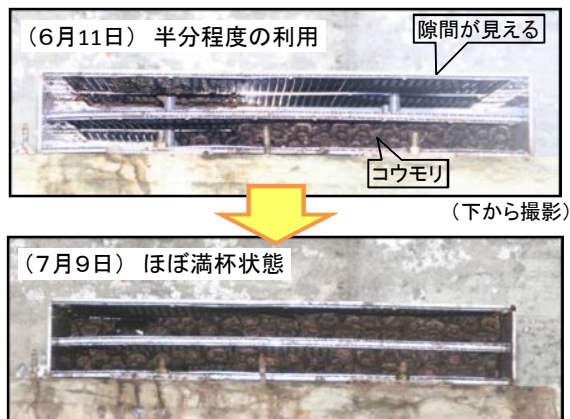
1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
冬眠				(移動)		出産・保育		(移動)	交尾	(移動)	冬眠



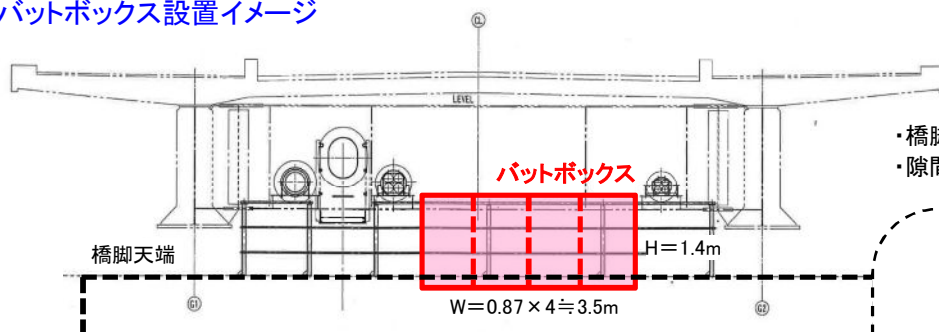
【バットボックス実証実験】



○バットボックス利用状況（塩ビ製・2層式）

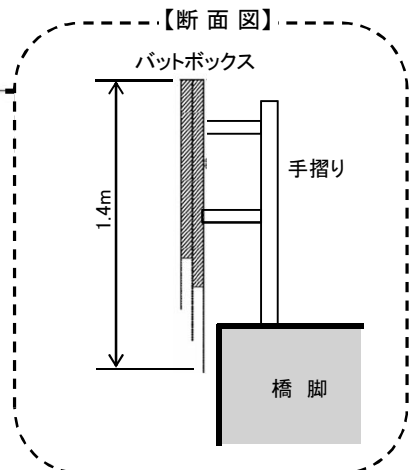


◆バットボックス設置イメージ



- ・橋脚天端手摺りを利用して設置。
- ・隙間5cm、2層式、塩ビ製。

【断面図】



◆今後の予定

- ・H25年8月 新橋供用予定。
- ・旧橋は、H26年度から3箇年に渡って撤去予定。
- ・従来の棲み処（旧橋）を追われたコウモリが、新たな棲み処（バットボックス）に徐々に馴化し、移住してくれることを期待。
- ・新橋バットボックスへの馴化・学習が鍵。強制移住テストなど、モニタリング調査を行いながら、フォローアップしていく。

ヒナコウモリがスムーズに移住してくれるのが今後の課題！